

痴呆老人をめぐる諸問題

(県精神衛生大会の講演から)

さきに厚生省が発表した昭和五十八年の平均寿命は、男七十四・二歳、女七十九・八歳で、人生八十年時代の到来はもう間近です。そして、この老年人口の増加とともに老年期痴呆(ちほう)も増加しています。

全国一といわれる高知県の五十八年老年人口比率は、全国平均九・八割に対し十三・九割となっており、本市の国保加入者一万七千七百三十三人のうち七十歳以上の高齢者は二千五百十九人で十四・七割と高率です。

老年期に初発する痴呆老人の発生率(昭和五十五年東京都調査Ⅱ、五十八年高根県調査Ⅱ、四〇)からみても、県内にも四千五百人の該当者がいると推測されます。痴呆患者は脳血管障害の予防でその発生を少なくすることが可能といわれ、また、徘徊(はいかい)不潔、自傷行為などの行動障害も適正な医療、介護その程度を軽減することが可能です。

ちなみに、五十八年度国保被保険者の医療給付上位二十位までの

疾病分類では、脳血管疾患で使用したとみられる医療費は約四億七千万円で、年間総額約二十億円の医療費からみれば、多額の医療費を費やしているといえます。肥満予防や適度の運動、禁煙等で脳動脈硬化対策を行いましよう。

老年痴呆の三六割は脳血管障害性のほけです。百人の老人中三十四人がばけ老人で、八十歳以上の高齢になると極端に多くなります。ほんものの痴呆は、そんなに多くなく、また、ほんものの痴呆でも体の病気を治すとか、環境を調整することによって、見かけは重症でもけつこう軽快するものです。

施設の必要性もさることながら老人にとつて、老人ホームに移されるとか入院するとか人為的な環境の変化は、いつそう痴呆を促進します。なによりも本人の住んできた環境の中で見守ることがたいせつで、老人に適した本人が好む仕事を与えることが必要です。老後対策を考えるのには、毎日の生活のなかでの健康管理を行うことがたいせつです。例えば、多

量の飲酒は神経細胞を死滅させ、朝食を取らずに夜食を多くすることと将来、動脈硬化をつくることになりす。

人間、ほけだしたら老化現象とあきらめず早期に保健所や専門病院を訪れましよう。痴呆に関する保健所の窓口は、土佐山田と須崎保健所です。

『ふるさと小包』のお知らせ

ただ今、南国郵便局では、ふるさと一南国の味と香りを全国にお届けする『ふるさと小包』を、受け付けています。

品物は南国市特産の土佐銘菓「芋ケンピ」と「ケンピ」の二種類で、栄養価も高く、風味豊かな自然食品と、ご好評を得ています。目ごろ、お世話になっている方や親類、お友達への贈り物として、「ふるさと小包」をご利用ください。

詳しくは南国郵便局郵便課(☎26113)で、お尋ねください。

痴呆老人看護の三つの原則として①患者に対し、暖かい愛情を持つて接すること②どのような問題行動があっても、しからず、制止せずその行動をよく考える③老人が自分で出来ることは、自分でさせるようにする。これらは、人間が健康で生きていくためのたいせつな三点です。

一度入院させてしまうと、その老人のいない家族が成立し、入院している老人のことを忘れてしまいます。最低、月一回程度の訪問を心掛けてください。痴呆老人を持つ家庭相互の連係やかたつて痴呆者を抱えて苦しんだ

人たちの助言、地域の人たちの助け合い、励まし合い、積極的な行政施策によつて、このような老人らは守られるのです。

南国市における老人施策について、詳しいことは福祉事務所までお問い合わせください。

国保税第三期分の納期になりました。納税は期限を守りきちんと納めてください。お互いの健康を守るたいせつな使命を持つ国保です。よろしくお願ひします。

※ご意見やご質問をお寄せください。☎2111内線135
市民課国保係

年賀はがき発売中

郵便局では、十一月五日から年

賀はがきを発売しています。寄付金つき年賀はがき(四十五円)は売り切れの局もあり、四十円の年賀はがきも残りわずかとなっていますので、なるべく早めにお買ひ求めください。

『尿のくみ取り』は早めに

年末は、し尿のくみ取りが大変混雑します。お早めに。なお、電話での申し込みは12月25日まで、年明けは1月7日から平常業務を始

業者名	所在地	電話
浄化槽総合センター	下末松	635117
香南衛生社	大桶甲	642517 620233
南国衛生社	廿枝	633531
南国清掃	岡豊町中島	662432